

協議会ニュース

No. **155**

2017. 6



Contents

02	自然観察サポーター養成講座① センス・オブ・ワンダー キッズ自然観察会	尾張支部	大谷 敏和
03	平成 29 年度 通常総会報告	事務局	石原 則義
04	講演会報告 イモムシ観察のすすめ	尾張支部	久米 未祐
05	海上の森の春のいきもの	尾張支部	内海 勇夫
06	〔新連載〕 竹クラフト第一回「竹コップ、又は筆立て」	名古屋支部	高木和彦
07	フィールド今昔「豊橋公園」	東三河支部	瀧崎 吉伸
08	支部総会報告(名古屋支部、知多支部、西三河支部)	名古屋支部	滝田 久憲
09	新会員からのメッセージ(尾張支部)	知多支部	榊原 靖
10	私の活動紹介「いつでも、どこでも、誰とでも・・・」	西三河支部	三田 孝
11	理事会報告(平成 28 年度第5回、平成 29 年度第1回)	編集部	
12	行事案内/編集からのお知らせ/編集後記	東三河支部	中西普佐子
		事務局	石原 則義

今号の表紙

「木の上のチューリップ? (ユリノキ)」久米未祐 (尾張支部)

自然観察サポーター養成講座①

「センス・オブ・ワンダー キッズ自然観察会」の参加者募集

会長 大谷敏和

当協議会が「あいち森と緑づくり環境活動推進事業」交付金を受け、愛知県主催の「自然観察指導員講習会」と「フォローアップ研修」に代わる研修の企画・運営を行うこととなり、昨年度は、日本自然保護協会の協力のもと、誰でも参加できるユニバーサルな手法を学ぶ「ネイチュアフィーリング」の研修を行いました。

今年度は、子どもを対象にした観察会の手法を学ぶ「キッズ自然観察会」を実施します。自然体験を通して、子どもの感性を磨き、危険を学び、不思議さへの気づきを提案するとともに、自然観察指導員である会員皆さんの経験を共有したいと思います。ユニバーサルな自然観察指導員を目指している会員皆様のご参加をお待ちしております。

開催日：7月15日(土)～16日(日) 一泊二日

定員：30名(親子※の参加10組) ※子どもは、5歳以上

場所：愛知県美浜少年自然の家(名鉄内海駅から3.8km、駐車場42台)

〒470-3236 愛知県知多郡美浜町大字小野浦字宮後1-1

参加費：宿泊費・食費等実費 おとな4000円、子ども3300円

※宿泊は男女別の相部屋になります

※当日キャンセルの場合食費のみ負担をお願いします

持ち物：弁当、野外活動後の着替え、帽子、水筒、ビーチサンダル、懐中電灯、虫よけ

講師：坂部里咲(地球ハグ倶楽部代表)

鈴木美香(看護師、極上のベビーマッサージ教室「Angel」を主宰)

スタッフ：石樽純子、大谷敏和、高松一史、山田和男、山田千宏

＜キッズと関わる人のためのプログラム内容＞

安全対策理解、講演「自分と地球をハグできる心」、講義「誘導の仕方」・「投げかける言葉」、トラップ作成、ウミホタル、ライトトラップ、土星観察、昆虫トラップ観察、「森にて自然遊び」と関わる、クラフト、意見交換会(子どもをとりまく環境)、交流会

＜子どものためのプログラム内容＞

安全対策理解、海岸まで自然観察、親子で海岸遊び、ウミホタル、ライトトラップ、土星観察、昆虫トラップ観察、森にて自然遊び、クラフト

申込方法：参加者名、性別、年齢、住所、連絡先を、

郵送・電話・Eメールのいずれかの方法で、大谷あてにお送りください。

申込先：〒507-0814 多治見市市之倉町13-83-507 大谷 敏和あて

電話：0572-23-6907 Eメール：kokokeiv3@yahoo.co.jp

締切：6月20日(火)まで(申込者多数の場合抽選)

平成 29 年度 通常総会報告

日時：平成 29 年 3 月 20 日(月・祝)13:30～ 場所：名古屋国際センター 参加者：47 名

◆開会

大谷会長の挨拶に続き、議長（大谷会長）、書記（浅井理事）を選出した。

(大谷会長)

平成 29 年度は会員募集のための自然観察指導員講習会を行わない代わりに、「あいち森と緑づくり事業交付金」を活用して、県協議会独自で企画運営した講習会・研修会を行うこととしたい。平成 28 年度は「ユニバーサルな自然観察」をテーマとし、障害を持った方への対応を学んだが、今回は、「子どものための自然観察会」の指導者養成をテーマとし、平成 28 年度の交付金事業を踏襲して申請したい。

◆第1号議案 平成 28 年度事業報告

石原事務局長から、総会資料に基づき事業報告がなされ、賛成多数で承認された。

◆第2号議案 平成 28 年度決算・監査報告

会計代行の大谷会長から、総会資料に基づき決算報告がなされた。

榊原監事から、領収書が確認できないものを除き、適正に処理されているとの監査報告がなされた。

また会員から、決算報告上、助成金（H29 年 5 月収入予定）も今期の収入とするため「未収金」として取り扱ってはどうか等の提案があった。決算報告の修正については 5 月の理事会に諮り承認を受けることを条件に、決算が承認された。

(補足：H29.5.5 に開催した理事会において、大谷会長(兼会計)及び榊原元幹事から、全ての領収書を確認したとの報告があった。また、決算報告の修正案も示され、理事会にて承認を受けた。詳しい報告は、9月発行予定の協議会ニュース 156 号に掲載予定。)

◆第3号議案 新役員紹介

石原事務局長から、理事会で選任された平成 29 年度の役員の紹介をした。知多支部長は南川陸夫氏から榊原靖氏に交代。会計は大谷敏和会長が兼務。監事は吉田雅紀氏となり、新役員は総会の場で承認された。南川陸夫氏（元知多支部長）から退任のあいさつがあった。

◆第4号議案 平成 29 年度事業計画

石原事務局長から、総会資料に基づき事業計画案が提案され、賛成多数で承認された。

- ・ 各支部が実施する「あいちの自然観察会」「研修会」について、日時・テーマ・実施場所を発表。
- ・ 自然環境サポーター養成講座①「子どものための自然観察会」の指導者養成講座は、平成 29 年 7 月 15 日(土)～16 日(日)に開催。(詳細は協議会ニュース 6 月号に掲載)
- ・ 自然環境サポーター養成講座②「生物分類研修会」は両生類をテーマとし、10 月 9 日(月・祝)に開催。講師は島田知彦氏(愛知教育大学)に依頼した。
- ・ 平成 29 年度の調査活動「メリケントキンソウ」の実態について、調査担当の瀧崎氏から説明を受けた。

◆第5号議案 平成 29 年度予算案

会計代行の大谷会長から総会資料に基づき予算案が提案され賛成多数で承認された。

◆その他

県協議会として関わっている「愛知環境づくり推進協議会」や「外来種検討会」などの各種委員会等について、会を代表して参加している各理事等（長谷川氏、堀田氏）から報告があり、瀧崎氏からも補足説明があった。

(「通常総会資料」及び「会計報告」の修正版は、今号の協議会ニュースに同封)

《総会終了後、講演会と懇親会を開催》

(記録：石原)

イモムシ観察のすすめ

講師 安田 守氏

レポート：尾張支部 久米 未祐



▲講師の安田守氏が会場に問いかける様子

平成 29 年度の総会後に、イモムシハンドブックの著者としても有名な、生きもの写真家の安田守氏による講演が行われました。氏の活動拠点は長野県ですが、暖かい地域の虫を探すために愛知県にも来られるそうです。天竜川に沿って外来種が長野県に侵入することもあり注目しているとのことでした。講演の主な内容は以下のとおりです。

1 はじめに

子どもの頃からイモムシが好きだったわけではありません。しかし昆虫コレクションという本でイモムシの写真を並べたら面白そうだなと思い、調べてみたらとても面白くて、いつのまにか本を 3 冊も出していました。今日は研究者ではない素人の目線からイモムシについて語りたいと思います。

2 イモムシの絵、描けますか？

実物を見ずにイモムシを描こうとすると、まず困るのは「足」。種類によって違いますが、足のように見える 16 本のうち、前側の 6 本は成虫と同じように節があります。残りはお腹の筋肉が発達したもので、枝につかまるなど、足の役割を果たしています。

3 なぜ「芋虫（イモムシ）」か？

江戸時代の「和漢三才図会」では、葉食い虫のうち芋の葉を食べるものを芋虫と呼んでいました。現在の辞書では毛のあるものを毛虫、それ以外をイモムシとしています。アゲハの幼虫もよく見ると毛が生えていますし、私は毛虫も含めてイモムシとしています。

4 イモムシの食べ物

イモムシの多くは植物を食べますが、菌類や動物を食べるものもあります。桑の葉を主食とするカイコのようなスペシャリストやマイマイガのような雑食性のものもありますが、繊維が硬く表面の毛で体が傷ついたり毒があつたりして、植物を食べるのは簡単なことではありません。

例えば、カイコとは別の雑食性のイモムシに桑の葉を食べさせると 10 日くらいで死んでしまいますし、モンシロチョウの幼虫が好むアブラナ科の辛味成分は、酵素と混ざると多くの虫にとって猛毒となります。

また、雑食性のイモムシにも好みがあるようで、私が調べた限りではよく食べられたのはブナ科、バラ科、マメ科の順でした。

5 何色のイモムシが多い？

イモムシの体色で最も多いのは緑色です。オレンジや黄色など派手な色で自分に毒があることをアピールするものや、その真似をしているものもあります。また、植物の葉や枝、鳥のフンなどに擬態し、身を隠すものもあります。しかし、それほど工夫しているにも関わらず、生まれたイモムシの 99% 近くは別の生き物に食べられてしまうのです。

あいちの自然観察会

海上の森の春のいきもの

尾張支部 内海 勇夫

日時 2017年4月15日(土)

10:00~15:00

場所 海上の森

参加者 指導員13名 一般 7名

いつもは一般参加者と指導員合わせて10人ぐらいの観察会ですが、今回はあいちの自然観察会の一環として開催し、参加者は20人。一般も指導員も2倍です。

参加した指導員は、いつものメンバーに、協議会の大谷氏、尾張支部の齋竹氏、オオバコ通信の牧野氏、今回のイベントをシェアしてくれた永田氏、途中で姿が見えなくなった浅井氏、「海上の森を楽しむ会」の山本氏…すごいメンバーです。でも天気は今一つ。昼前後で少し降雨…しかし、色々なことが学べる観察会になりました。

コースは、

駐車場 ~ 四ツ沢 ~ 物見山林道
~ 溜池 ~ サテライト ~ 海上
大正池 ~ 駐車場 です。

最初はウリカエデです。



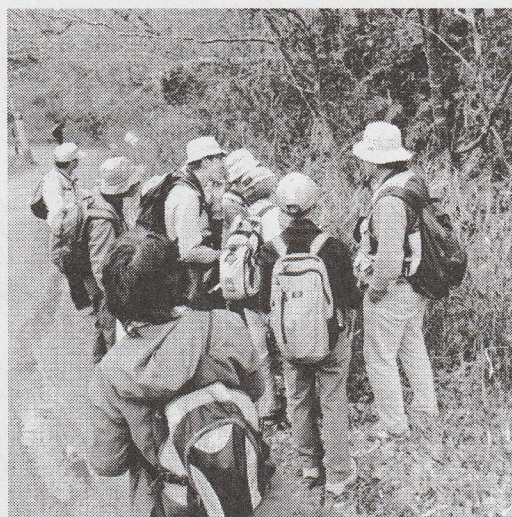
ウリカエデの雄花



ウリカエデの雌花

ちょっと調べると、「ウリカエデは雌雄異株とされているが、まれに同株がある。カ

エデの仲間は、まれにある」とのこと。海上の森にも途中から分かれた枝のそれぞれが、雄花と雌花になっているものがありました。ビックリです。



▲観察会の様子

でも途中で雨…足はトントんと前に進みました。

サテライトで昼食。その後、少し雨は降っていましたが、海上大正池まで行ってきました。

最後は、オオカメノキです。



有意義な観察会になりました。

竹コップ、又は筆立て

名古屋支部 高木和彦

第一回、第二回はみなさんが中学生等に竹クラフトを教える時に役立つと思われる内容を紹介します。ノコギリやナイフを使った事が全く無い生徒が殆どです。しかし、2時間も行なうと結構上手くなる生徒が多いので大いに教えましょう。

今回は竹コップ、又は筆立てを紹介します。(数年愛用の筆立て、φ75チョット太め。真竹の美しい緑色は変色してしまいましたが、それはそれで味が有ります。)単純に輪切りにして、口を付ける所を滑らかにするだけの工程ですが、入門に良く、且つ実用的だと思います。



▲完成品「筆立て」

材料はφ60～80位のマダケ。竹クラフトには主に割れ難いマダケを使います。ハンギングバスケットやミニ門松の台の様に太い物や肉厚が必要な場合はモウソウチクを使います。マダケとモウソウチクの見分け方も説明すると良いでしょう。使用する道具は、竹用のノコギリ、ヤスリ、受け台です。

今の季節に切った竹は水分や糖分を多く含む為カビ易く、丸い物は割れ易いので要注意です。直射日光は当たらないが明るい、風通しの良い所で乾燥させます。

受け台の上に竹を乗せてノコギリで切ります。竹とコップの上下とを合せます。

ノコギリは引く時に切れます。アサリがなぜ必要かという基本的な説明も必要です。木用の鋸と竹用の鋸の違いなども説明します。万力で保持する方法も出来ませんが、強く締めると割れるし、弱いと動いてしまうので締め具合に神経を使う必要があります。布等を挟んで力の分散と傷の防止を行います。

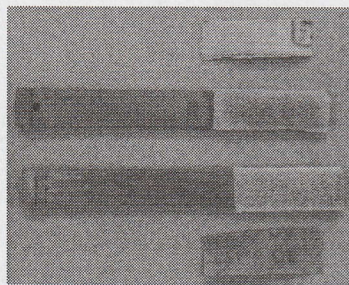
稈に直角に竹を切るコツは、竹を水平に置く事、ノコギリを両手で持って切る位置



▲竹の「受け台」

置が体の真ん中に来るようにする事、力を入れずにサラサラと切る事です。誰かに押さえてもらう必要があるので、皆で和気あいあいと作業するように話します。

稜線はヤスリで面取りをします。特に唇の当たる所は滑らかに仕上げる必要が有ります。マジックテープで番手を変えられる物を用意するか、



▲番手の変更ができる「ヤスリ」

色々な番手のヤスリを用意します。番手が大きくなると目が細くなる事も説明しておきたいです。ヤスリを往復でかけるとササクレが出来る恐れがあります。必ず繊維を伸ばす方向にかけます。

次回はお箸です。簡単な形ですが、基本的技能を習得できる良い課題だと思います。

豊橋公園

東三河支部 瀧崎吉伸

豊橋公園は、旧吉田城趾に設けられた都市公園である。戦前は軍都豊橋の中心的な位置づけに有り、歩兵第 18 連隊が設置されるなどした。当時の練兵場と射撃場が、現在は陸上競技場や球場になっている。

戦前戦後の様子を、三河生物同好会の会誌「虫譜」などからうかがい知ることができる。現在は空堀となっている堀の中にはまだ水が有り、多くのサナエトンボ類が飛び交っていた様子を稲垣毅氏が虫譜 55 巻 1 号に寄稿している。植物に関しては、恒川敏雄氏が昭和 50 年代頃までの豊橋公園について「豊橋公園の自然」の中に記録している。驚くべきことにクマガイソウやヒロハノハネガヤなど、重要な絶滅危惧種が生育していたようだ。

筆者が豊橋公園で本格的に植物観察を始めたのは昭和 53 年。その頃の豊橋公園は今よりも湿潤な環境で、堀の斜面にはイノデ類が多く茂り、ホクリクイノデ（アイアスカイノデ×サカゲイノデ）やドウリョウイノデ（アイアスカイノデ×イノデ）といった雑種も観察できた。美術博物館が建設された頃から、乾燥化が進んだように思う。現在の堀の中にはイノデ類は見られない。

とはいえ、豊橋公園の自然環境は、中核市の中心部にある都市公園のそれとは思えないほどに現在も豊かである。公園内ではセイヨウタンポポよりもトウカイタンポポが優先し、セントウソウやシャクが群落を形成している。ヤブタビラコがそこかしこに咲き、アオオニタビラコやアカオニタビラコと雑種（オニヤブタビラコ）を作っている。堀の中ではアズマガヤの群落が見られ、ムラサキケマンやハナウドが咲く。ヤ

ブニンジンも群落になって咲いている。マルバウツギやホトトギスも可憐な花を咲かせる。石垣やその周りには在来イヌノフグリが、まだかなりの個体数で残っている。

何よりも重要なのは、エノキ、ムクノキ、ケヤキの大木がこんもりと旧城趾を覆い、それらの中にタブノキやカゴノキ、シロダモなどのクスノキ科の樹木が立派な成木となって自生していることだ。落葉樹の枝にはしばしばヤドリギが着いており、季節になるとレンジャクの群を見ることもできる。クロマツの枝にはマツグミも赤い実を付けている。隣接する沖野の田んぼには、ホウネンエビやカブトエビが発生し、在来スズメノカタビラが一面に生えている。

本丸の石垣には、豊橋市内で確実な産地はここだけというチャセンシダが元気に生育している。ウチワゴケの群落も何カ所かに確認できる。マツバランも細々とではあるが生き残っている。陸上競技場北のクスノキの樹幹には、シノブが大株になって広がっている。

一方で、珍しい帰化植物の見られるところでもある。国内ではこの公園だけでしか生育が確認されていないアフリカチゴアヤメは、今年も数万株がかわいらしい花を咲かせた。ヤセウツボの群落も徐々にその範囲を広げており、その中にアルビノ個体（キバナヤセウツボ）も含まれている。

今後この公園の自然がどのように移ろっていくのか、興味の尽きないところである。

名古屋支部総会報告

滝田 久憲

日 時：2月26日(日)14:00～

場 所：あいちNPO交流プラザ

出席者：24名 委任状44名

平成29年度の名古屋支部総会が名古屋市東区のウィルあいちの「あいちNPO交流プラザ」会議室で開催されました。来賓の愛知県連絡協議会会長大谷氏より県協議会の最近の動きなどが紹介されました。支部長挨拶の後、議長と記録係が選出され、議事が進められました。

最初に平成28年度の各種事業が報告されました。平成28年度においても、名古屋市環境局との協働で環境デーなごややESDに関連したいくつかの事業を実施しました。続いて、会計報告がなされました。会費の未納分があり、収入不足から、例年に比べて繰越金が減っていることが報告されました。また、今年度は役員の改選期に当たり、総会時に立候補者がいなかったことから新体制が提案されました。次に、平成29年度の事業計画とそれを実施するための事業予算が議論され承認されました。新しい動きとして、4月から茶屋ヶ坂公園で自然観察会が立ち上がります。

総会終了後、生き物イラストレーターの安斉俊氏により、「昆虫、魚、鳥、爬虫類、両生類、植物なんでも描きます！」と題した講演会が行われ、生き物イラストレーターになったきっかけやこれまでの仕事などが紹介されました。また、生き物の生態などを正確に伝えるために、専門家と交流しながら様々な情報を集めたりしていることなどが紹介されました。

名古屋支部 平成29年度役員

支部長：滝田 久憲

副支部長：石原 則義、石樽純子、大澤 淳二、近藤 記巳子、高松 一史、滝川 正子、布目 均、巾 賢治、堀田 守

会 計：新山 雅一

知多支部総会報告

榊原 靖

日 時：2月5日(日)9:30～

場 所：阿久比町勤労福祉センター

出席者：33名

知多支部の総会は参加者33名で行われました。例年同様、平成28年度の事業報告、決算及び監査報告、平成29年度役員選出、事業計画、予算案などが提案されすべて承認されました。

知多半島には5市5町の自治体がありますが、知多支部では各市町単位でブロックと称する九つ（美浜町、南知多町は合同）の小ユニットに分かれてそれぞれの域内の観察会の企画・運営を行っています。平成28年の実績では各ブロックで6～15回、合計92回の観察会を実施しました。近年の傾向として地元自治体からの委託観察会が増えてきています。

このほかに支部全体として取り組む行事として、秋に行われるみどりの少年団交流会、県民センターから委託される観察会、年2回行っている宿泊研修、話題や自慢(?)の収集物などを持ち寄って発表する持ち寄り会などがあります。

29年度も概ね同様の事業計画となっています。観察会を始めとして取り組む予定の事業はたくさんありますが、遺漏なくこなして来年の総会でいい報告ができることを望んでいます。

その他の事項として会員の入退会についての報告がありました。新たな入会があった一方で高齢や体調の不安で退会される会員が出てきているのは寂しい限りです。

知多支部 平成29年度役員

顧問：降幡光宏

代表：榊原 靖

副代表：榊原正躬、南川陸男

庶務：吉川 勉

会計：森田琢磨

会計監査：牧野靖子、山田公子

西三河支部総会報告

三田 孝

日 時：2月4日(土)14:00～16:30

場 所：竜美丘会館(岡崎市)

出席者：13名

総会は13名の参加で開催されました。平成28年度活動報告と会計及び監査報告のあと、平成29年度の役員、活動計画及び予算が決定されました。

平成28年度の会の運営は順調ではありませんでした。7月の伊吹山研修会が参加者不足で、8月の佐久島観察会は担当者の都合で、1月の村積山観察会は大雪により中止となりました。会報の発行やホームページの更新も滞り修正すべき点が多々指摘されました。一方、毎月行われる地域定例観察会は順調に実施され一定の成果をあげました。

会員数に対し実働会員は少数で、負担が一部の会員に集中している現状を踏まえ、新年度は会主催観察会を6ヶ所に減らしました。毎月の地域定例観察会は昨年通りの5ヶ所。研修会は2回。5月に段戸裏谷、9月に昭和の森で予定します。昭和の森ではバーベキューも用意し会員の親睦を図ります。

会の運営がより多くの会員の参加で支えられ、観察会が盛況になることを願います。

西三河支部 平成29年度役員

会 長：三田 孝
副 会 長：馬場 隆之
事 務 局：石黒 豊広
広 報：石川 正雄
広 報：鈴木 寛之
広 報：中根 幸司
監 査：水谷 宗保
幹 事：河江喜久代
幹 事：山本 博美
幹 事：伴 幸成

新しく協議会に加わった会員からのメッセージをご紹介します

今回は尾張支部に入会された2人です。

ガーデニングが好きで、2015年開催の「第32回全国都市緑化あいちフェア」のボランティアガイドをしました。展示植物のガイドをするうち、会場のモリコロパークの自然に惹かれ、自宅の庭の範囲を超え、もっと広い範囲で自然に接する活動ができればと考えてようになり、その一歩として自然観察指導員になりました。正直専門的な知識はほとんど無いのでこれからの活動を通して学んでいこうと思います。よろしくお願いします。

(尾張支部 霜 桂子会員)

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

廃棄物処理関係の会社に勤めながら、会社周辺の自然環境の調査を独自で実施しています。当該処理施設は常に廃棄物の適切な処理をし、地域環境の保全に努めておりますが、施設の安全性を外部（特に地域住民）に証明するため、周辺の自然環境を調査・研究し、それを積極的に情報発信しています。加え、施設立地等とは関係ありませんが、周辺で野生動物のロードキルも時々あり、実態を記録し、死骸については骨格標本作製して参考資料として施設で展示、紹介をしています。自然の観察力、捉え方などを多くの人に、より魅力的に伝えられるよう、昨年自然観察指導員の講習会に参加しました。よろしくお願いします。

(尾張支部 吉田 昇会員)

今後とも、よろしくお願いします！

いつでも、どこでも、誰とでも・・・

東三河支部 中西普佐子

私は東三河支部主催の豊橋公園の定例自然観察会や東三河ふるさと公園（豊川市）の観察会、地域観察会に参加しています。

まず私自身が自然の素晴らしさ・不思議さ等を体験し、みなさんと感動を共有出来たらと思い、下見や他の地区の観察会にも出かけるようにしています。

私は特に植物に目がとまります。去年はヤサカフウロ・アズマツメクサ・ハリアサガオ・イガトキンソウ・ニチナンオオバコ等の標本を愛知植物の会に提出、今年はトゲミノキツネノボタン・コケカミツレ（仮称）を採集しました。

メリケントキンソウは、豊橋公園や校庭でも見つけ、関係先に駆除をお願いしました。



▲豊橋公園での観察会の様子

五感で楽しもうと観察と摘み草料理をするのは、年齢に関係なく毎回大好評です。

クサギやヤシャブシ染めのTシャツやハンカチ、マフラーも紹介しました。準備がちょっと大変ですが、私自身もいっぱい楽しみながらやっています。

自然観察会だけでなく去年は4回の“親子

自然の魅力発信イベント”（2歳の参加者も）で、昆虫や植物の紹介、草笛やムクロジでのシャボン玉や羽根つき、松葉相撲、松葉人形のフラダンス、葉っぱカルタなど、“あそび”を通して身近な自然と親しむ工夫もしました。

最近のうれしい出逢いを紹介します。

豊川市の小学校で、学区のお母さんが呼びかけて“身近な自然に親しもう”のお手伝いに行った時のことです。

少年野球に兄を送ってきて終わるまで待っているという若いお父さん。2歳の弟と1年生の妹を連れて「なんとなく～」の様子でした。かがみ込んでメリケントキンソウを見ている私に「何してる～」と僕がちょこんと覗き込んで来ました。「トゲトゲが堅くなったら刺さって痛いのよ・・・」と示すと、「あっちにもある」と手を引っ張って、案内してくれました。虫が大好きで、いつもアリを見ているというその辺りには、メリケントキンソウが群生していました。びっくり！2才の子に教えてもらったのです。

結局“親しもう”にお父さんと一緒に飛び入り観察した後、“植物の絵も描いてみよう”にも親子で夢中の様子。濃いサングラスのお父さん「何年ぶりかな～おふくろに送ろ、びっくりするだろうな～」一終わる頃には1番楽しんでいる様子でした。

「今度はいつ？」この一言と、とびっきりの笑顔はうれしい一瞬です。

平成 28 年度 第5回理事会 報告

日 時:平成 29 年 2 月 11 日(土・祝)14:00～ 場 所:名古屋都市センター

出席者:大谷、星野、堀田、石原、吉田、森田、永田、布目、石川、瀧崎、浅井、新山、長谷川、齋竹、滝田、南川、三田、高松

◆平成 29 年度の自然観察指導員講習会開催は見送り(大谷会長から)

自然観察指導員講習会について、「あいち森と緑づくり事業交付金」の活用を前提に日本自然保護協会の担当者とも検討した結果、会員登録のための講習会では交付金が活用できないため、平成 29 年度は開催を見送ることとした。その代わり、平成 28 年度交付金事業(自然環境サポーター養成講座①講習会)を踏襲した内容で交付金を申請し、県協議会独自に企画運営した講習会・研修会を行うこととしたい。

平成 28 年度は「ユニバーサルな自然観察会」がテーマだったが、平成 29 年度は子どもを対象とした講座をテーマにしたいと思い、本日の理事会には子ども向けの自然観察会の経験が豊富な大高緑地観察会の高松氏にも加わってもらった。今後は、大谷会長が中心となって実行委員を募り、原案を練っていききたい。

◆議案

1 来年度(平成 29 年度)事業案

- 「あいちの自然観察会」、「研修会」は内容が煮詰まっていない支部が多く、次回理事会にて日程等を確認することとなった。
- 「自然環境サポーター養成講座②研修会」は、両生類をテーマとし、講師は愛知教育大学の島田先生が適任ではないかという意見が出された。
- 「協議会交流の日」の担当は東三河支部(10/29(日)9:30～豊橋市大岩町岩屋緑地)

2 新役員の紹介 知多支部長:南川陸夫さんから榊原靖さんに交代

平成 29 年度 第1回理事会 報告

日 時:平成 29 年 3 月 20 日(月・祝)13:30～ 場所:名古屋国際センター

出席者:大谷、星野、堀田、石原、吉田、森田、永田、布目、瀧崎、浅井、新山、長谷川、齋竹、滝田、榊原、三田、寺本、久米

◆議案

1 総会資料について再度確認した。主な確認事項は以下の通り。

あいちの自然観察会	各支部から日時・テーマ・実施場所を確認した。
研修会(各支部)担当	(通常総会資料「第4号議案 平成 29 年事業」に掲載)
自然環境サポーター養成講座①講習会※	テーマ:「子どものための自然観察会」の指導者養成 日時:7月15日(土)～16日(日) 場所:愛知県美浜少年自然の家
自然環境サポーター養成講座②研修会※	テーマ:両生類・生態研修会 講師:島田知彦氏(愛知教育大学) 日時:10月9日(月・祝)13:30～ 場所:ウイंकあいち
協議会交流の日 (担当:東三河支部)	日時:10月29日(日)9:30 場所:豊橋市大岩町岩屋緑地 内容:自然観察・昼食をとりながら交流を深める。
調査	メリケントキンソウについて(154号p.7参照)
保険	レクリエーション傷害保険 3000名見込み(155号に折込み)

※あいち森と緑づくり事業交付金対象事業

2 新役員の紹介

- 会計:大谷敏和会長が兼務
- 監事:吉田雅紀さん(榊原靖さん知多支部長に交代に伴う)

3 その他

- 県協議会として関わった委員会等について各理事から報告(大谷:愛知自然ネット運営委員会・海上の森運営協議会、長谷川:愛知環境づくり推進協議会、堀田・瀧崎:外来種検討会)
- 第2回理事会(5月5日(金・祝)13:30～、場所:音楽プラザ)

***** 行 事 案 内 *****

区分	日時	内容	場所	集合場所	担当
自然環境 サポーター 養成講座①	7/15(土)～ 16(日)	場所：愛知県美浜少年自然の家 (詳細はp.2をご覧ください)			
あいちの 自然観察会	9/24(日) 9:30～11:30	ビーチコーミングで 海の漂着物を楽しもう	蒲池海岸	9:30蒲池漁港	知 多
	10/29(日) 9:30～12:00	秋の岩屋緑地でドン グリを探そう (観察会終了後、昼食を 食べながら交流会)	岩屋緑地	9:30芝生広場 (駐車場東側)	東三河
協議会交流 の日					
研修会	9/30(土) 9:30～	トラップを使った 昆虫等の観察	定光寺	9:30定光寺公 園第3駐車場	尾 張
	11/3(金・祝) 8:00～16:00	茶臼山高原の秋の草木 観察会	豊根村	8:00地下鉄本 郷ターミナル北側	名古屋
自然環境 サポーター 養成講座②	10/9(日) 13:30～	テーマ：両生類 講師：愛知教育大学 島田知彦氏	ウインクあいち13階1302		協議会

***** 編集部から *****

◆新連載「竹工作」(p.6)と新企画「フィールド今昔」(p.7)

今号から、名古屋支部高木会員による新連載「竹クラフト」が始まります！また、各支部が長年観察しているフィールドの今と昔を比べる新企画も掲載します。

◆あなたが撮影した写真や描いたイラストを募集します！

会員の皆様からお送りいただいた写真やイラストを表紙に掲載したいと思います。
会員の皆様が撮影又は描かれた観察会や生きものの写真やイラストの電子データとタイトルをメールで編集部にお送りください。

＜編集後記＞編集担当になってから、早いもので3年余り経ちました。編集担当になったきっかけは自然観察指導員になった2013年。新指導員歓迎会で編集担当の募集をしていたからです。編集担当になろうとしたのは会員の皆さまの活動状況をいち早く知ることができると考えたからです。当初の考えはいくらか当たっており、編集担当として原稿の依頼、編集をしていくと、自らも手がけているという当事者意識があるせいか、完成された協議会ニュースをただ読むのとは見え方が違ってくる気がします。さらにもう一つ、編集担当でなければ学べないことがあります。編集ではページスペースに制限があるため、元記事を一部変更・削除することがありますが、できるかぎり元原稿のオリジナリティを保ちながら編集しているつもりです。原稿を作成される方により文章使いは様々なので、それを保ちながら編集することになりますが、新聞やニュースを見聞きするのは違い、毎回新鮮な気持ちで言葉に向かい合うことができます。(日浦)

編集スタッフ

岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章

協議会ニュース編集部

久米未祐 TEL:090-3302-1621 E-mail:ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail: norimameobata@yahoo.co.jp Web Page: http://naichi.net

郵便振替口座: 00820-9-6546 (名義: 愛知県自然観察指導員連絡協議会)